

学校通信

学校生活における大切なお知らせです

2026 JAN.
第 272 号

学校長からのメッセージ

新年あけましておめでとうございます。

お正月を挟んでの冬休み。ふと不登校の子どもたちはどう過ごしているだろうか、その子やご家族が心穏やかに過ごされていますようにと、想いを馳せました。これまで不登校生に悩む保護者の方からその心中をお聞きしてきました。我が子がある日突然学校に行けなくなったりときの衝撃。そして何とかして学校へ行かそうとした葛藤の日々…

不登校の原因は様々言われていますが、細かな校則や同調圧力を求める学校の姿勢も大きいと感じます。校門で頭髪やスカートの丈、ソックスに至るまで厳しくチェックされ、校内では「みんな同じ」が求められるなど、それらが未だ多くの学校の方針です。そんな学校が嫌で不登校になる生徒がいても、学校ではなく、個人の問題として扱われることに疑問を感じます。幸い国際色が濃い YMCA は、以前から人権に関わるこれらの諸問題に取り組み、「命」を第一義に考えてきました。

今、日本には 35 万人超の不登校生がいます^{※1}。子どもが不登校になったために仕事を辞め、一人で子育てに奮闘する保護者にも出会いました。YMCA の職員も例外でなく、子どもが不登校になり一時期、子連れで出勤していました。小 1 を家に置いておけず、仕事を休み続けることもできず、職員にとって苦渋の選択でした。でも事務所では皆がその子に声をかけ、時々在校生とも遊び、私も昼休みに公園へ連れ出して一緒に弁当を食べたりしました。これは、YMCA だから出来たことでしょうか？

家庭と学校にしか行き場がない子どもや親がたくさんいます。そう感じさせてしまう社会…不登校の子とその親が人と関わり、居場所となる場が社会（職場や地域）の中になります必要な時代だと感じます。そして、親も孤立することなく周囲の誰かを頼れる、支えあえる社会。学校の在り方も進化させながら、そのような社会の実現に向けて私も尽力したく思います。

本年もどうぞよろしくお願ひ申上げます。

(校長 鍛治田 千文)

^{※1}2024 年:文部科学省

私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。

(フィリピ人への手紙 4 章 13 節)





今月の聖句

「外から人の体に入るもので人を汚すことができるものは何もなく、人の中から出て來るものが、人を汚すのである。」

(マルコによる福音書 7章 15節)

ベトナムの孵化直前の卵「ホビロン」を知っていますか。近所のベトナムスーパーで売られているのを偶然発見しました、私大好きなんです。見た目で「キモい」と引く人もいますが、現地では美味で健康的な人気食。私たちが「キモい」と感じるものも、所変われば「当たり前」になるんですよね。

今日の聖書の話も、そんな「食べ物の感覚」がテーマです。当時のユダヤ人には「これを食べたら神様に嫌われる（汚れる）」という厳しいルールがありました。例えば、豚肉やタコ、イカはNG。彼らにとってそれは、私たちが「賞味期限切れのドロドロの食べ物」を見るのと同じくらい、生理的に「ムリ！」と感じる感覚でした。

そんな中、イエス様はとんでもないことを言います。「外から口に入るものが人を汚すんじゃない。心の中から出てくるものこそが、人を汚すんだ」と。弟子たちはパニックです。「えっ、あの汚らしいものを食べてもいいの？」と。でもイエス様は、食べ物はただお腹を通って外に出るだけだけど、心の中に溜まった「悪口」や「いじわるな気持ち」こそが、本当に自分自身を汚くしてしまうんだよ、と教えたのです。

私たちはつい、見た目や第一印象で「あの人、キモい」「生理的にムリ」と線を引いてしまいがちです。でもイエス様は、「君たちのその『当たり前』の感覚、ちょっと見直してみない？」と問いかけています。大事なのは、外側のルールや見た目ではなく、自分の心からどんな言葉や思いが出てきているか。自分の「心の状態」をちょっとだけ意識して過ごしてみませんか。



「今月の聖句」 自己紹介

池田 優希（ゆき）

昨年度からYMCA学院高等学校に勤務しています。普段は八尾教会の牧師をしており、好きなことは、音楽。“体感するキリスト教”のスクーリングを担当しています。スクーリングは、生徒のみなさんと一緒に歌う楽しい時間です。

